

# 津波の心得5カ条

## 高い場所に避難

強い地震(震度4程度以上)を感じたとき、または弱い地震でも長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、ただちに海岸から離れ、高台など安全なところに避難する。

## 警報が出たら

地震を感じなくても、津波警報等が発表されたときは、ただちに海浜から離れ、急いで安全な場所に避難する。

## 正しい情報を聞く

正しい情報をラジオ、テレビ、防災行政無線、広報車などを通して入手する。

## 海岸・河川に近づかない

津波注意報でも、海水浴や磯釣りは危険なので、ただちにその場を離れる。

## 津波はくり返し来る！

津波はくり返し来襲するので(発生から6時間以上)、津波警報・注意報が解除されるまでは避難したととどまる。

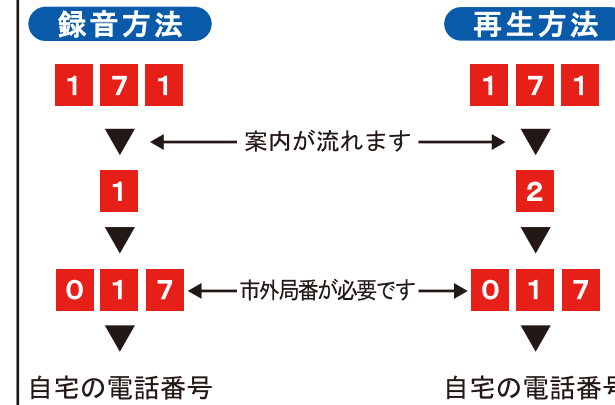
# 津波警報・注意報の種類

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (高さ予想の区分)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報	10m超 (10mより高い)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所に避難してください。 津波はくり返し来襲するので、津波警報が解除されるまでは安全な場所(避難した場所)にとどまること。	木造家屋が全壊・流失します。 人は津波による流れに巻き込まれます。
	10m (5mより高く10mくらい)			
	5m (3mより高く5mくらい)			
津波警報	3m (1mより高く3mくらい)	高い	標高の低いところでは津波が来襲し、浸水被害が発生します。 人は津波による流れに巻き込まれます。	
津波注意報	1m (20cmより高く1mくらい)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。 津波注意報が解除されるまで安全な場所(避難した場所)にとどまること。	海の中では人は速い流れに巻き込まれます。 また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。

# 災害用伝言サービス

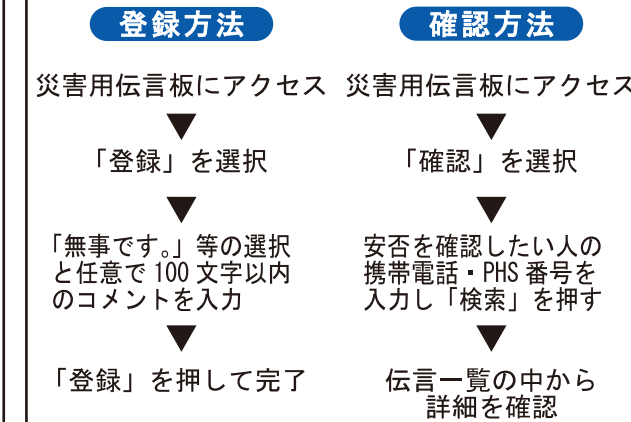
## 災害用伝言ダイヤル

被災地の方が、自宅の電話番号宛に安否情報(伝言)を音声で録音(登録)し、全国からその音声を再生(確認)することができます。



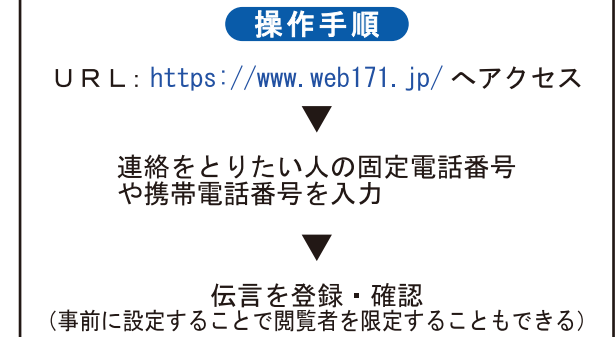
## 災害用伝言板

携帯電話・PHSのインターネット接続機能で、被災地の方が伝言を文字によって登録し、携帯電話・PHS番号をもとにして全国から伝言を確認できます。



## 災害用伝言板(web171)

パソコンやスマートフォン等から固定電話番号や携帯電話・PHS番号を入力して安否情報(伝言)の登録、確認を行うことができます。



# 非常持出品の用意はできていますか？

もしもに備え日頃から準備しておきましょう！！

衣類	タオル・カッパ・帽子・軍手・寒くならないものなど
救急医薬品	包帯・消毒液・常備薬・ばんそうこうなど
非常食品	乾パン・水・缶詰類など(火を使わないもの) ※最低3日分は用意しましょう。
その他	現金(小銭も)・保険証・携帯ラジオ・懐中電灯・電池・マッチ・ライター・ローソク・万能ナイフ・缶切り・ウエットティッシュ・オムツ・粉ミルクなど

# 目次

全体図(索引図)	1, 2	詳細図(東滝・間木地区)	13, 14
詳細図(土屋・浪打地区)	3, 4	詳細図(浅所・東和地区)	15, 16
詳細図(茂浦・浦田地区)	5, 6	詳細図(浜子地区)	17, 18
詳細図(稻生地区)	7, 8	詳細図(清水川・口広地区)	19, 20
詳細図(東田沢地区)	9, 10	詳細図(狩場沢地区)	21, 22
詳細図(白砂地区)	11, 12		